

3 アンケート結果報告

<学生における違法コピー実態調査報告 目次>

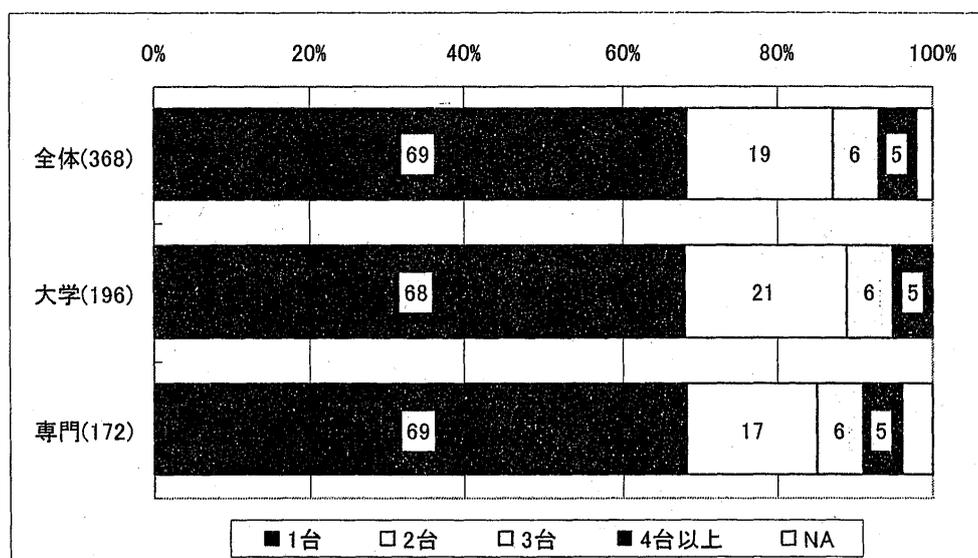
	頁
1. 所有パソコン台数	7
2. パソコンの用途	8
3. 使用ソフトウェア	9
4. ソフトウェアの入手経路	10
5. コピーの使用経験	11
6. コピーソフト	12
7. コピーを使う理由	13
8. 今後のコピー使用	14
9. コピーを使わない理由	15
10. コピーに対する考え	16
11. ソフトウェア著作権の認知度	17
12. 著作権者の許諾がないコピーの違法性認知	18
13. 著作権者の許諾がない送受信の違法性認知	19
14. 違法コピー売買サイト	20
(1) 認知度	20
(2) 閲覧	21
(3) 関心度	22
15. 使用許諾書の閲読	23
16. 著作権の学習機会	24
17. コピーを人に上げることへの抵抗感	25
18. 回答者の属性	26

1. 所有パソコン台数

■ 1台所有者が全体の69%。

大学生、専門学校生ともに1台所有者は7割弱で、あまり差がない。

<所有パソコン台数> (%)



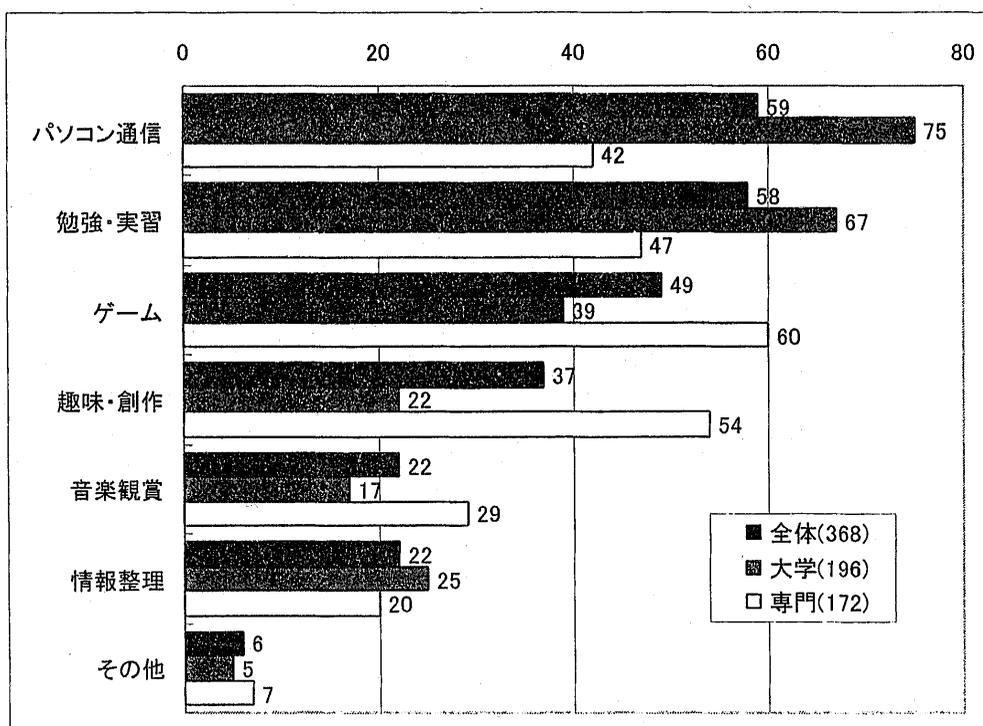
* グラフのかっこ内数値 (例「全体(368)」) はサンプル数。以下同じ。

2. パソコンの用途

■ 「インターネット、パソコン通信」 59%、「学校の勉強・実習に関連した作業」 58%などに使用する例が多い。

大学生では、上記の「パソコン通信」 75%、「勉強・実習」 67%が特に多いが、専門学校生はむしろ「ゲーム」 60%、「趣味・創作」 54%などのほうが多い。

＜パソコンの用途＞（％）



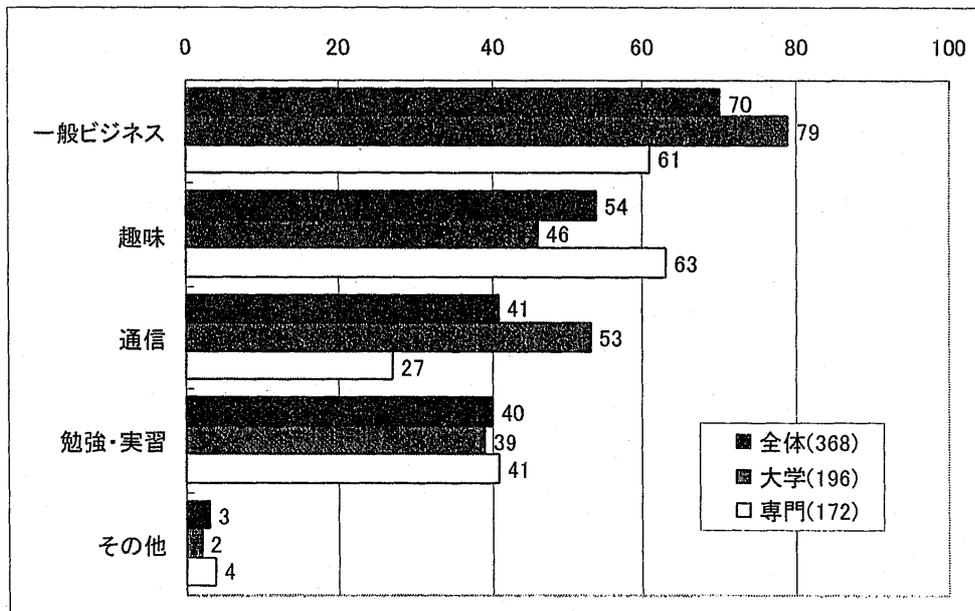
3. 使用ソフトウェア

■ 「一般ビジネスソフト」は全体の70%が、「趣味用ソフト」は54%が使用。

「学校の勉強・実習に必要なソフト」の「特殊目的ソフト」は全体の40%に満たない。先述の使用状況を勘案すると、勉強・実習の分野でも「一般ビジネスソフト」が使われているようだ。

大学生では「一般ビジネス」79%が目立って多く、次いで「通信用ソフト」53%が多い。一方、専門学校生では「趣味用ソフト」63%が「一般ビジネス」61%と同じ程度に使われている。「通信」は専門学校生では27%に過ぎない。

<使用ソフトウェア> (%)

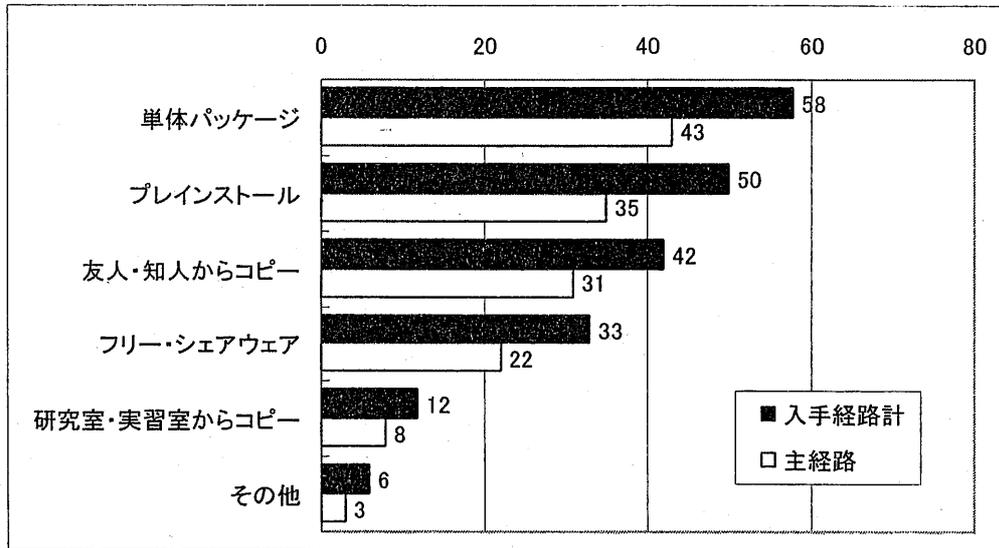


4. ソフトウェアの入手経路

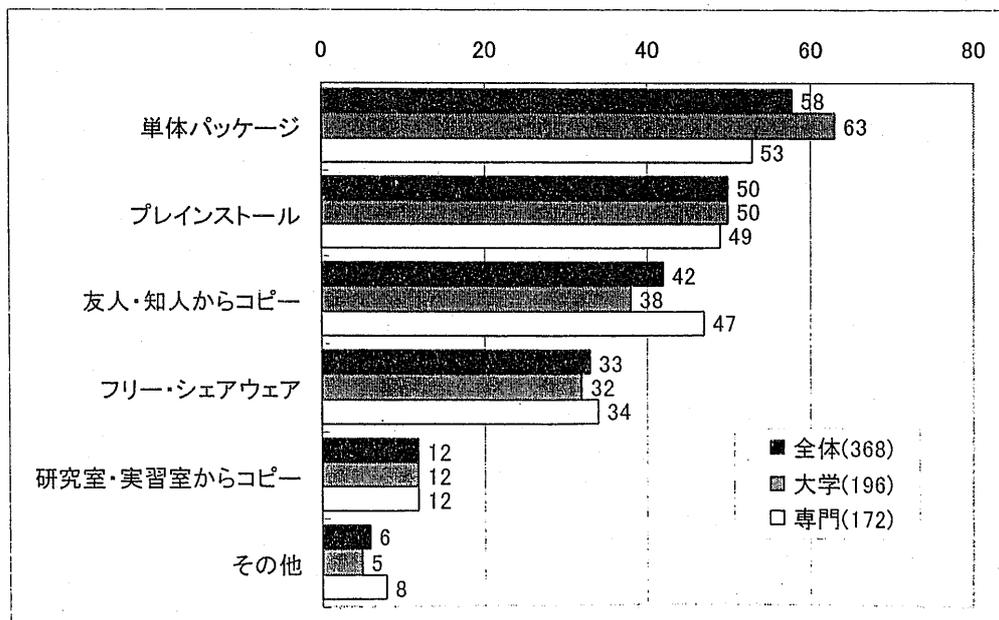
■「友人・知人からコピー」は全体の42%、「学校の研究室・実習室からコピー」は12%を占める（複数回答による）。

全体の半数以上が、ソフトを違法コピー品として入手している。（複数回答による）。

＜ソフトウェアの入手経路：全体＞（%）



＜ソフトウェアの入手経路（計）＞（%）

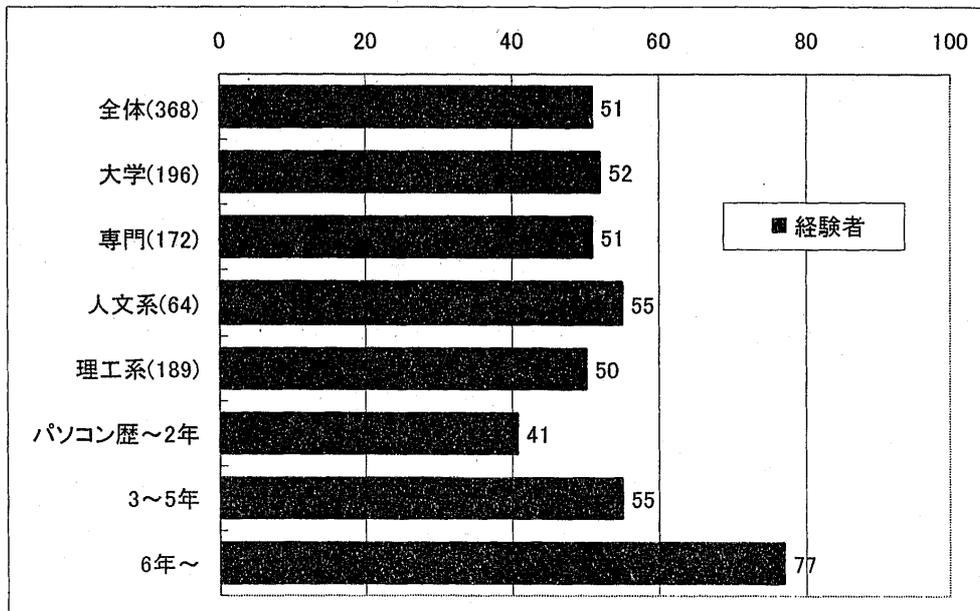


5. コピーの使用経験

■ これまでにコピーを使ったことがある、あるいはインストールしたことがある人は、全体の51%。

コピーの使用は、パソコン歴が長くなるにつれて、経験者は顕著に増える。パソコン歴2年以下(186s)では41%だが、3~5年(123s)で過半数の55%となり、6年以上のベテラン(47s)では77%。

<コピーの使用経験> (%)



6. コピーソフト

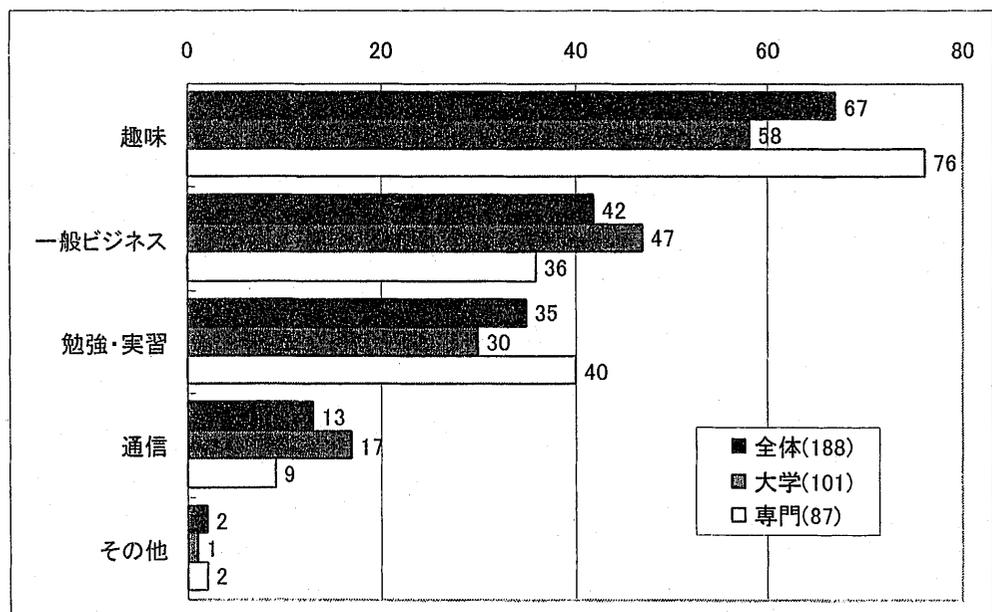
■ これまでに使ったことがあるコピーは「趣味用ソフト」67%が圧倒的に多い。

コピー使用経験者（188s）に使用したことがあるコピーをたずねた。

「趣味用ソフト」のコピー使用者が顕著に多く、特に専門学校生ではコピー経験者の4分の3にあたる76%が「趣味用ソフト」で、コピーを経験している。

以下「一般ビジネスソフト」42%、「勉強・実習に必要なソフト」35%と続く。

<使用したコピーソフト> (%)



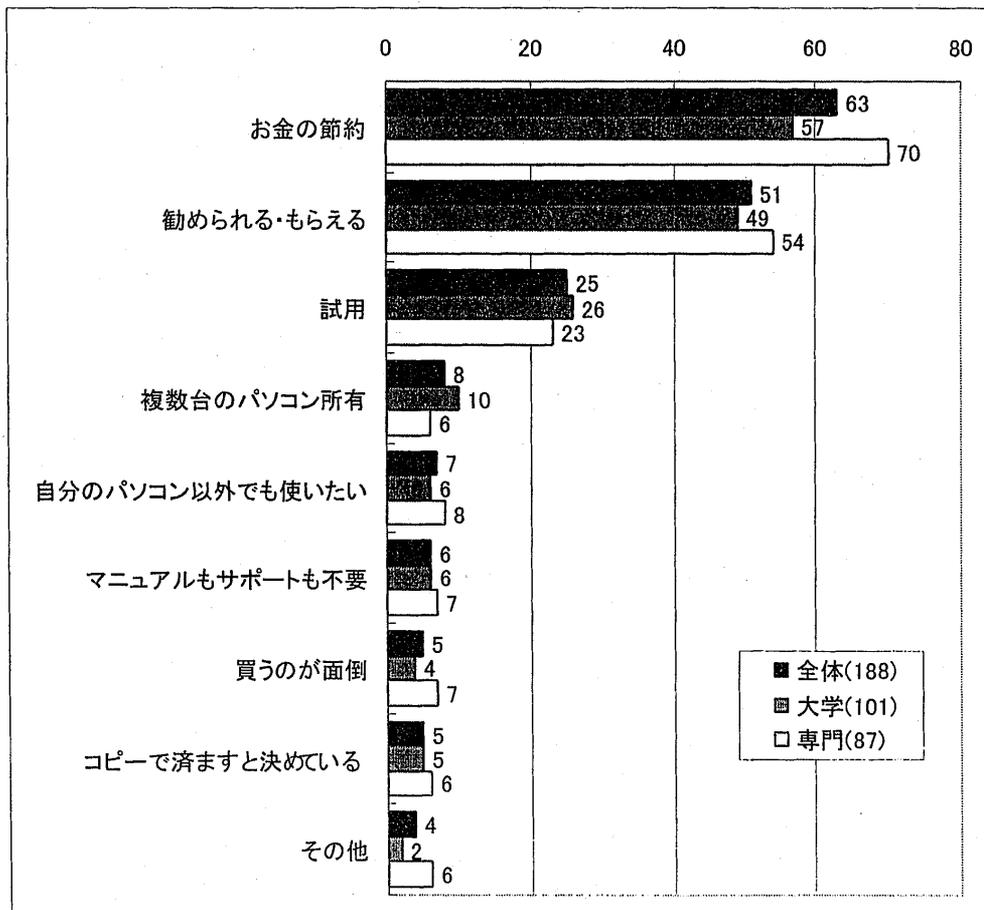
7. コピーを使う理由

■「お金の節約」63%、「人から勧められたり、もらったりできる」51%が多い。

「お金の節約」意識は、特に専門学校生で強く、コピー経験者の70%を占めた。

1ヶ月の小遣いの調査では、専門学校生は1万円未満が最も多く、大学生は2～3万、4～5万中心とやや高くなっており、それと関係していると思われる。(32頁参照)

<コピーを使う理由> (%)

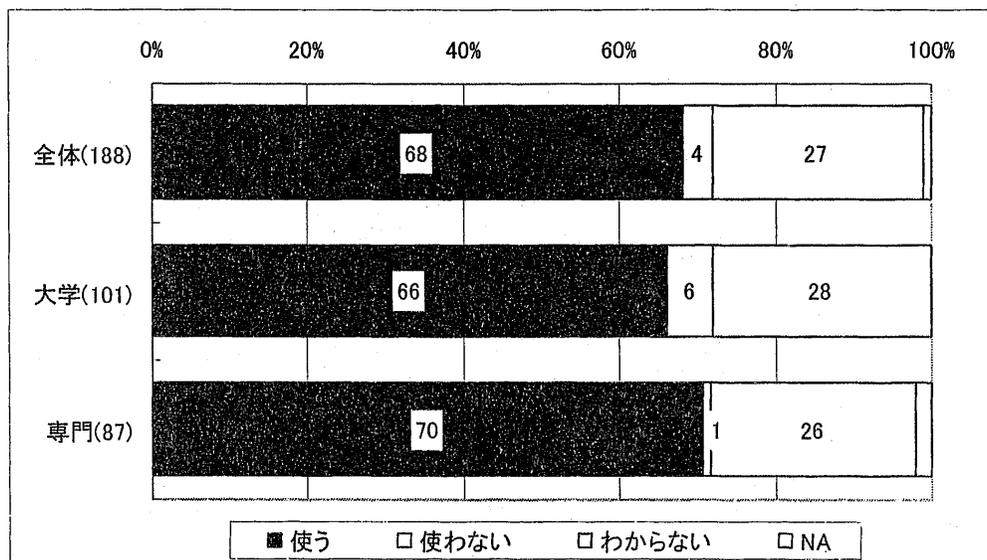


8. 今後のコピー使用

■ 今後もコピーソフトを「使うと思う」は全体の 68%。

今後コピーを「使わない」は、全体でわずか 4%にすぎない。特に専門学校生では「使わない」は 1%にとどまった。

<今後のコピー使用> (%)



9. コピーを使わない理由

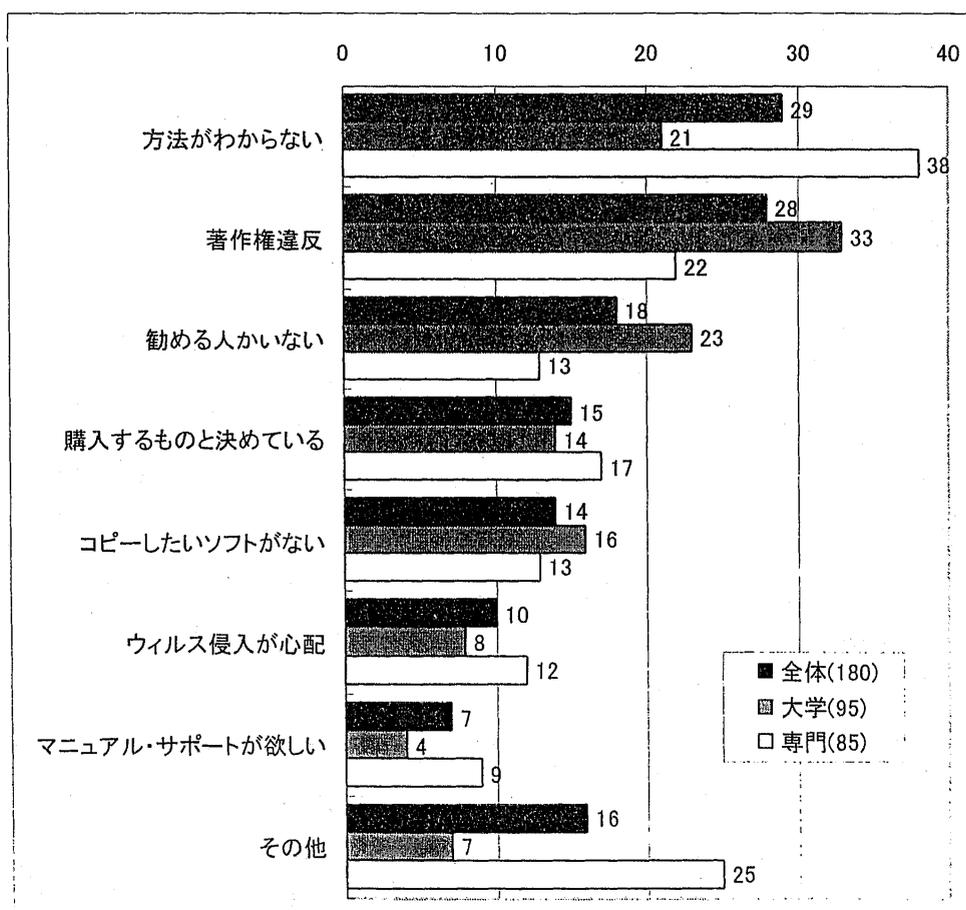
■全体では「コピーの方法、インストールの方法がわからない」29%と「著作権違反」28%が同程度だが、専門学校生では「方法がわからない」ためにコピーしなかった人が38%にもものぼる。

これまでにコピーソフトを使ったことがない人（180s）に、その理由をたずねた。

大学生は「著作権違反」が最も多く33%。一方、専門学校生は「方法がわからない」38%が突出し、「著作権違反」は22%に過ぎない。

「コピーだとマニュアルがついてこない・メーカーのサポートを受けられない」は全体の7%に過ぎず、コピーの抑止力にはなり得ない。

<コピー不使用理由> (%)



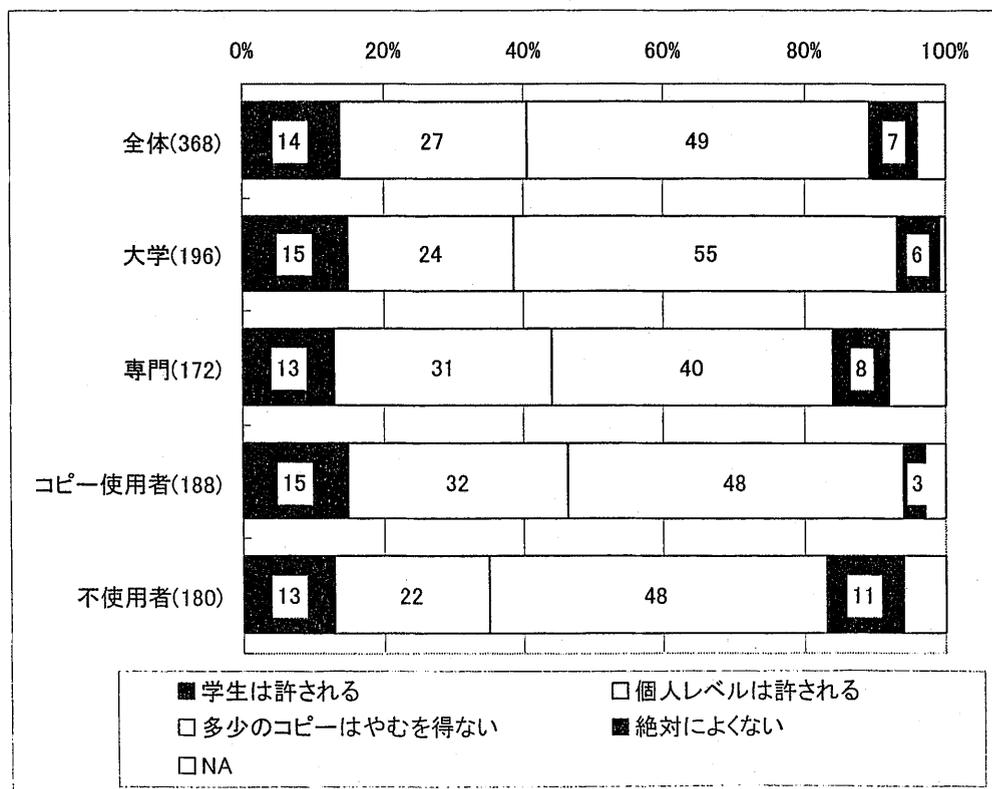
10. コピーに対する考え

■「コピーは絶対によくない」は全体のわずか7%。これまでにコピーを使ったことがない人でも11%に過ぎない。

「学生がコピーを使うのは許されるべき」は全体の14%、「学生でなくても個人レベルでのコピーは許されてもよい」は27%、「著作権の保護は大切だが、多少のコピーはやむを得ない」が49%。大多数の人が違法コピーを許容している。

これまでコピーを使ったことがある人とない人の差は、思いの外小さく、コピー経験者で「個人レベルのコピーは許されてもよい」32%がやや多い程度。これまでコピーを使ったことがない人でも、潜在的なコピー利用者予備軍であることがわかる。

<コピーに対する考え> (%)



11. ソフトウェア著作権の認知度

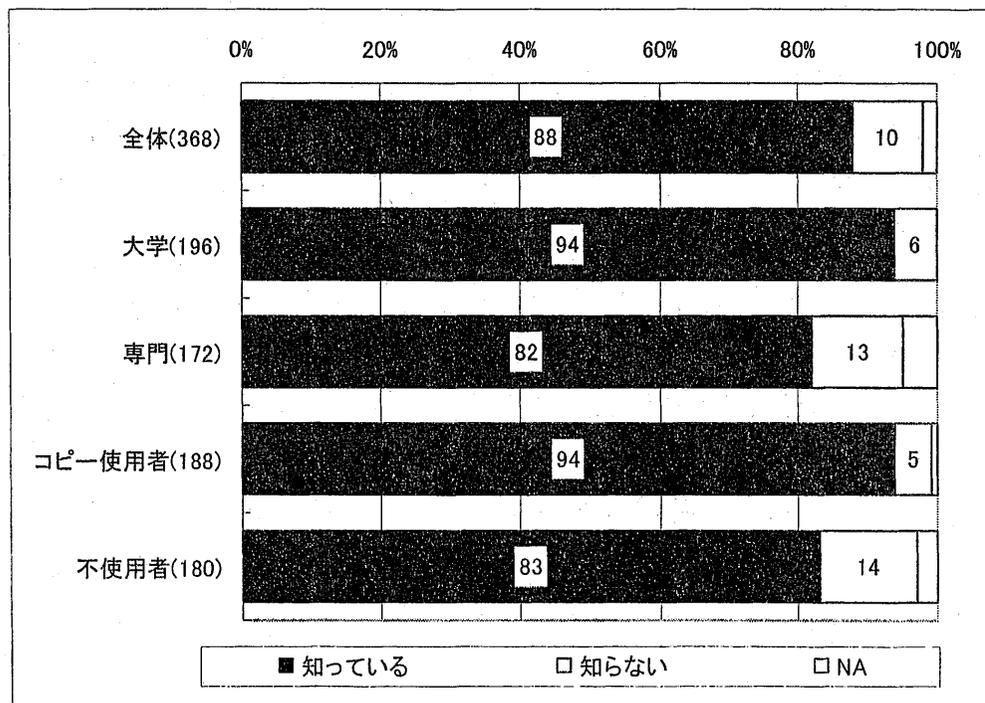
■ソフトウェアに著作権があることを知っているのは、全体の88%。

大学生は94%が知っているが、専門学校生は82%にとどまる。

大学生の年齢は20歳中心、専門学校生は18歳中心なので、その年齢差が関係していることが考えられる。

また、コピー使用経験者のほうが、不使用者より、著作権について知っている。

<ソフトウェアの著作権認知度> (%)



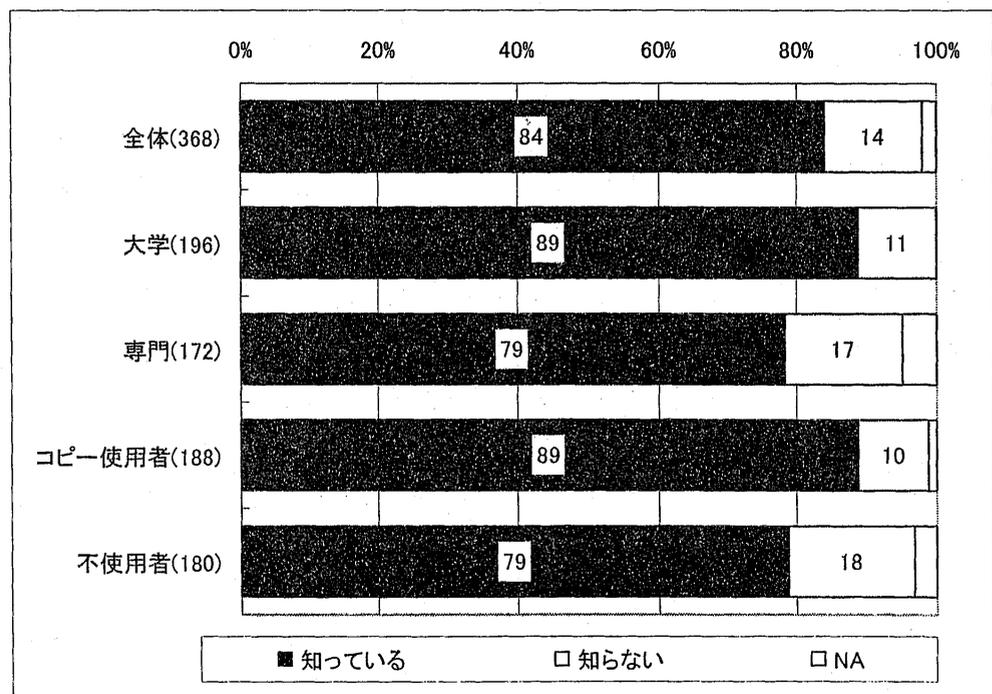
12. 著作権者の許諾がないコピーの違法性認知

■ 著作権者の許諾のないコピーが違法であることを知っているのは、全体の84%。

大学生は89%が違法性を認識しているが、専門学校生は79%。

また、前項と同じく、コピー使用経験のない人のほうが、かえって違法性についての認識が薄い。コピー使用経験者では89%が違法性を認識している。

<著作権者の許諾がないコピーの違法性認知度> (%)



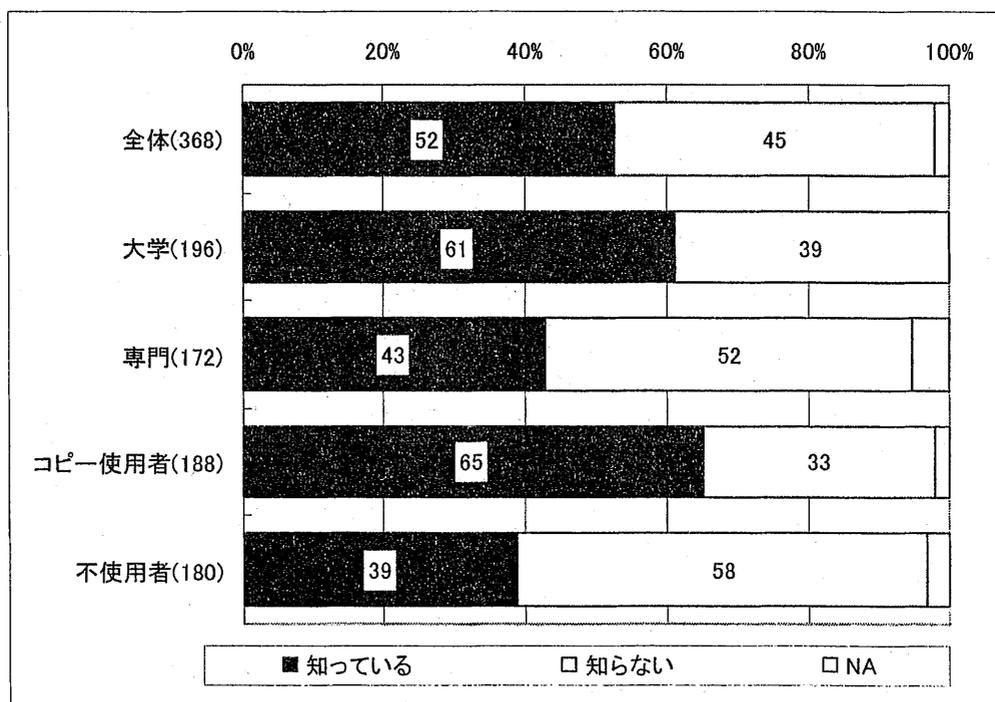
13. 著作権者の許諾がない送受信の違法性認知

■著作権者の許諾がなく、インターネットやLANでソフトウェアを送受信することの違法性を知っているのは、全体の52%。

この違法性については、全般に意識されにくいようだ。

特に専門学校生では、違法性を認識しているのが半数以下の43%にとどまる。

<著作権者の許諾がない送受信の違法性認知度> (%)



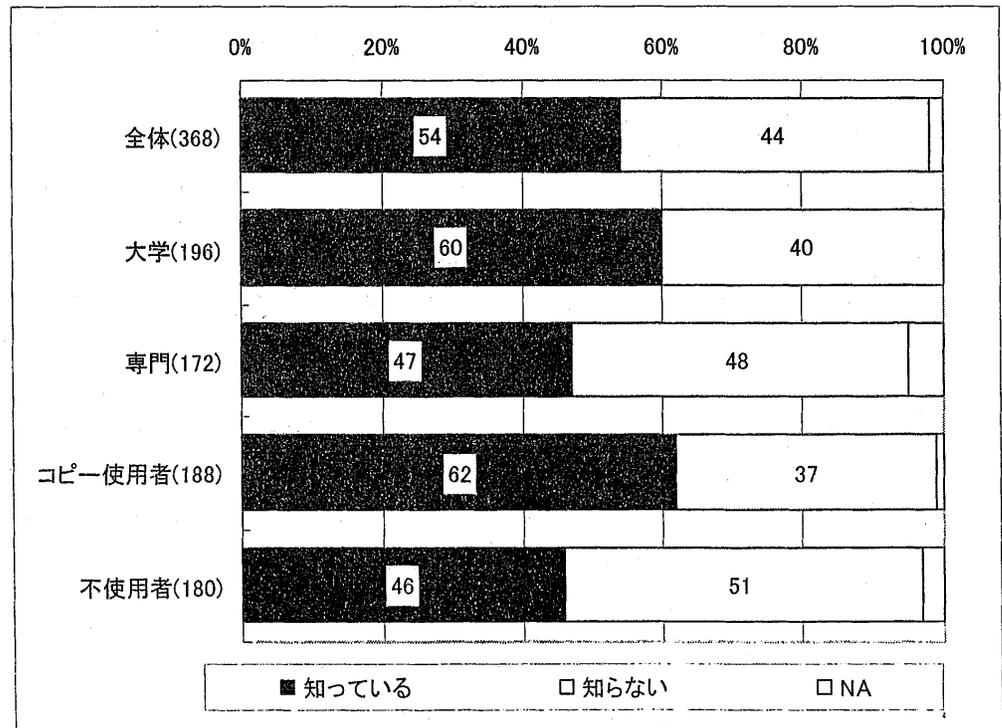
14. 違法コピー売買サイト

(1) 認知度

■違法コピーの売買サイトを知っているのは、全体の54%。

専門学校生（47%）より、大学生（60%）のほうが知っている。
コピー使用経験者でも、62%が認知。

<違法コピー売買サイトの認知度> (%)



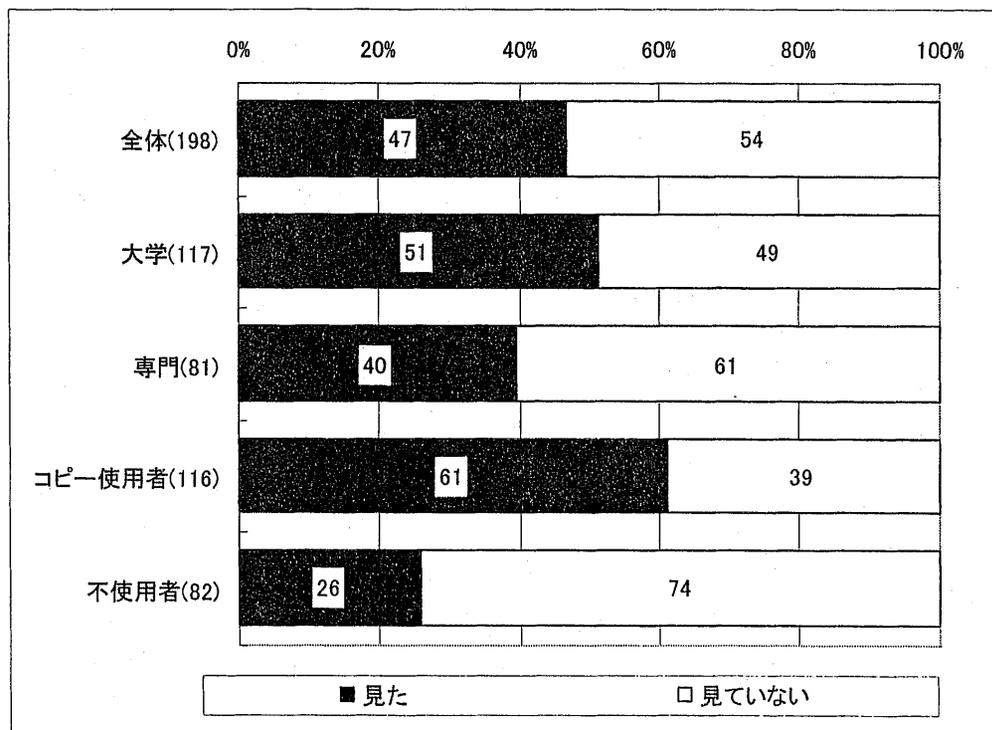
(2) 閲覧

■違法コピーの売買サイトを閲覧したことがあるのは、サイト認知者の47%。

違法コピー売買サイトの閲覧者は、サイトを知っている人の47%であるが、これは全体(368名)のちょうど4分の1にあたり、学生の4人に1人は違法コピー売買サイトを見ていることになる。

大学生(51%)、コピー使用経験者(61%)で、閲覧者が多い。

<違法コピー売買サイトの閲覧> (%)



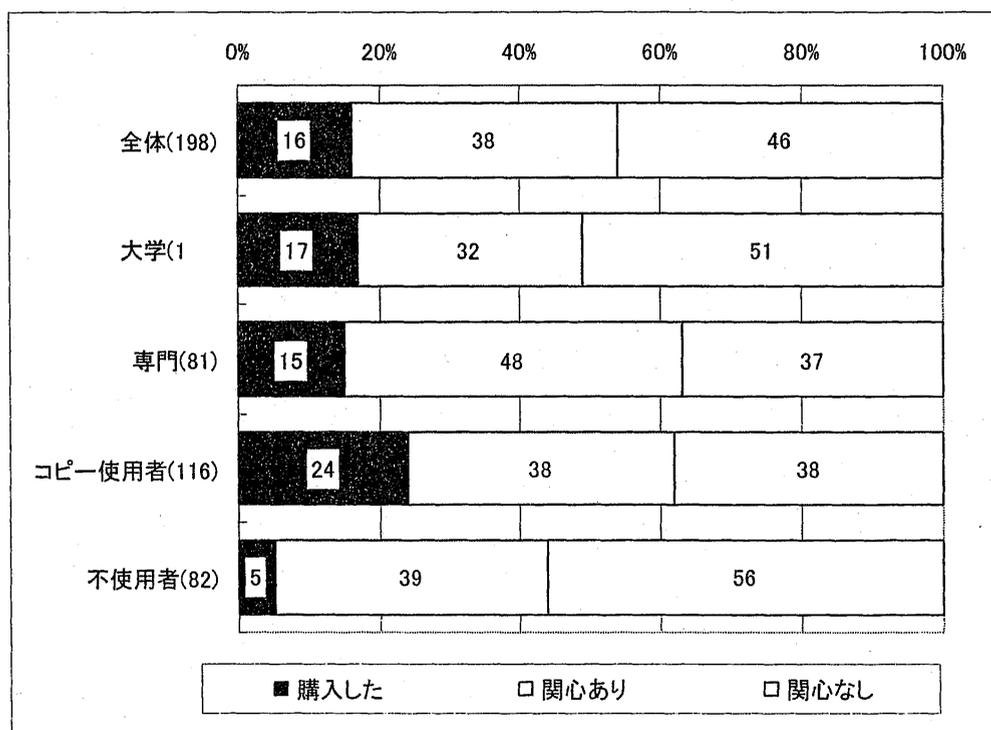
(3) 関心度

■違法コピーの売買サイトから「購入したことがある」のは、サイト認知者の16%、「関心がある」が38%。

これを全体ベース（368s）に直すと、「購入したことがある」は9%、「関心がある」が21%になる。

コピー使用経験者では、サイト認知者の24%がすでに購入に至っている。

<違法コピー売買サイトへの関心度> (%)



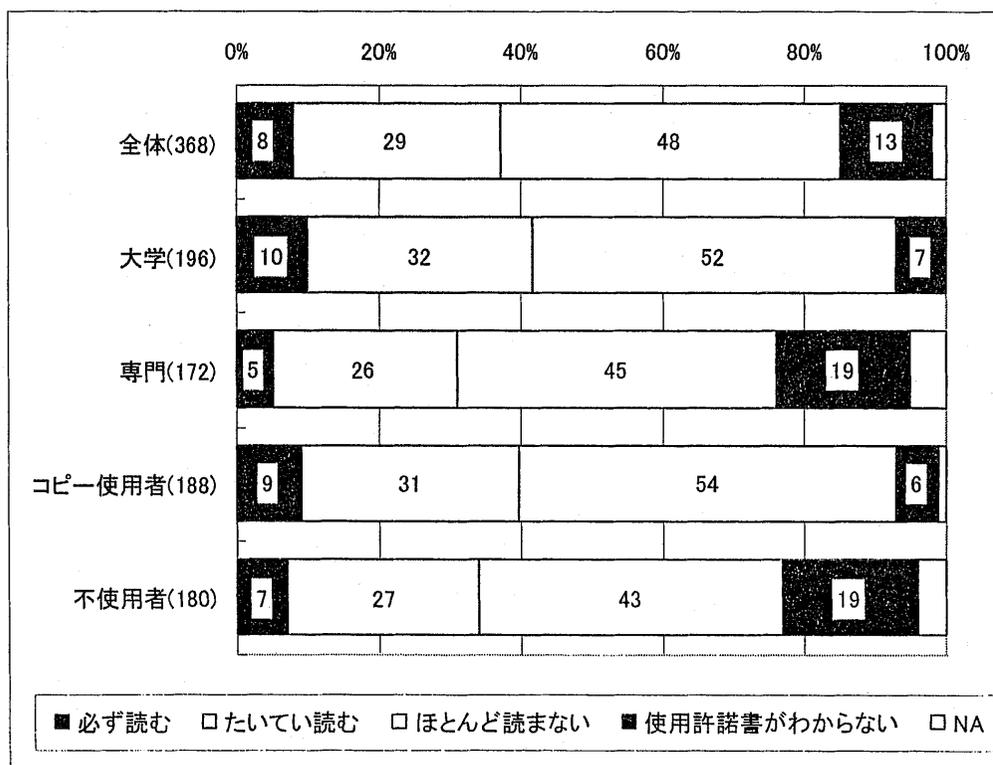
15. 使用許諾書の閲読

■使用許諾書を「必ず読む」8%、「たいてい読む」29%。

「ほとんど読まない」は半数近い48%を占め、そもそも「使用許諾書が何かわからない」も13%存在している。したがって、全体の6割は、使用許諾書とは無縁のパソコンライフを送っていることになる。

大学生よりも、専門学校生の閲読の度合いが低い。

<使用許諾書の閲読> (%)



16. 著作権の学習機会

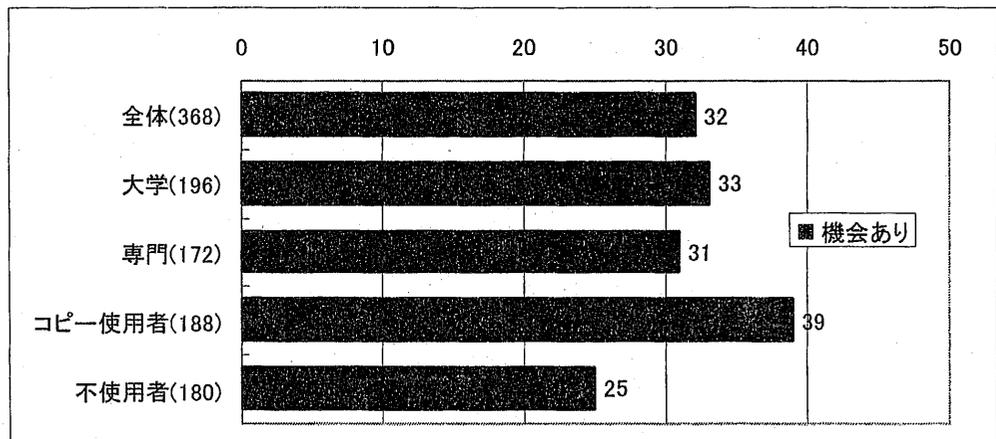
■ これまで著作権の学習機会があった人の割合は、全体の 32%。

大学生と専門学校生では、学習機会に差はない。コピー使用の有無では、皮肉なことにコピーの使用経験者のほうが、著作権についての学習機会が多い。

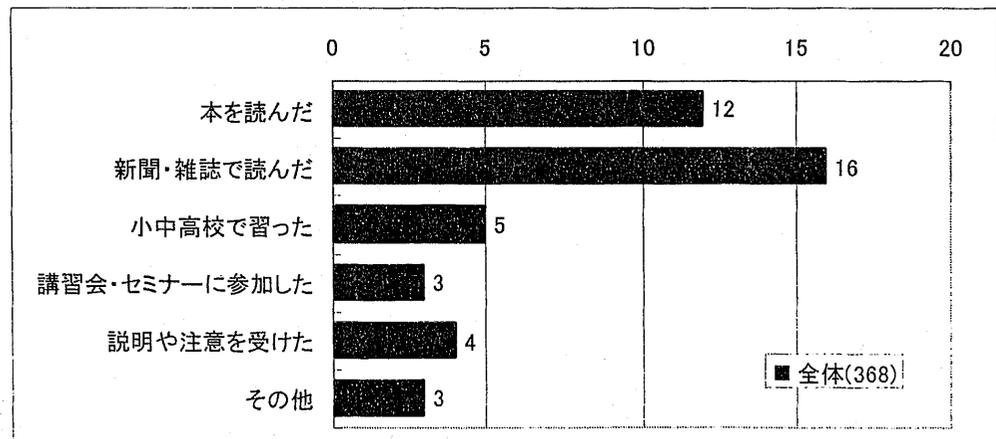
学習機会の内容は「新聞・雑誌」16%、「本」12%などの印刷媒体との接触が主。

なお、「講習会・セミナー」「説明や注意」を受けた人は合わせて 23 人いたが、その場所は「大学・専門学校」22 人が圧倒的に多かった。

<著作権学習機会ありの比率> (%)



<著作権学習機会> (%)

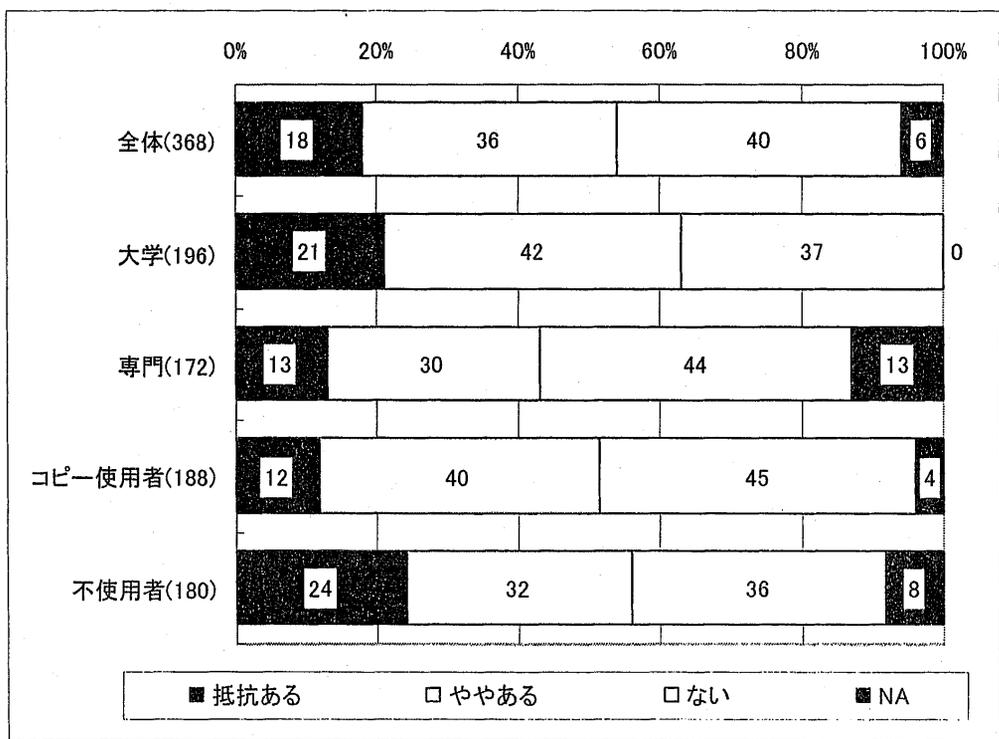


17. コピーを人に上げることへの抵抗感

■ コピーを人に上げることにに対して「抵抗ある」が全体の18%、「ややある」は36%。抵抗がない人は40%に達する。

大学生では63%が大なり小なり抵抗を感じるが、専門学校生では43%にとどまる。

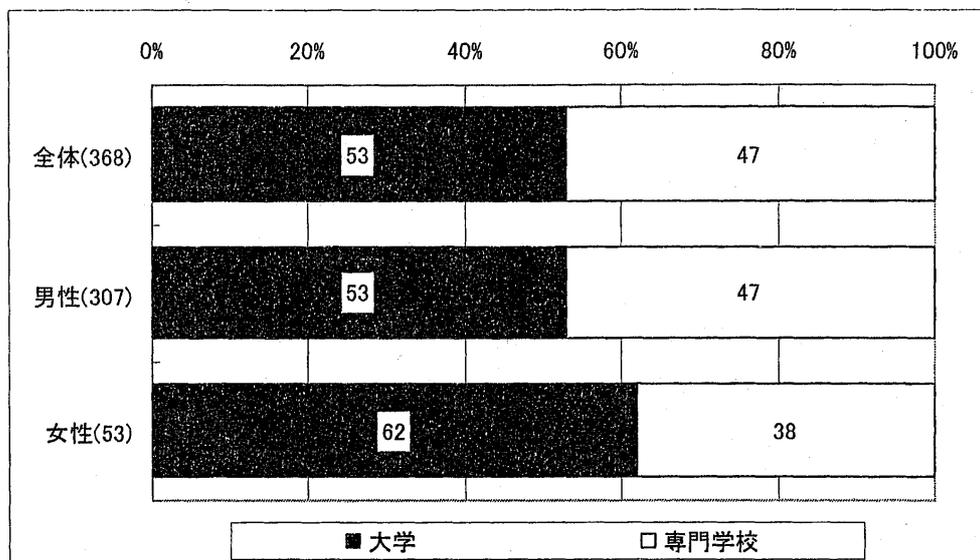
<コピーを人に上げることへの抵抗感> (%)



18. 回答者の属性

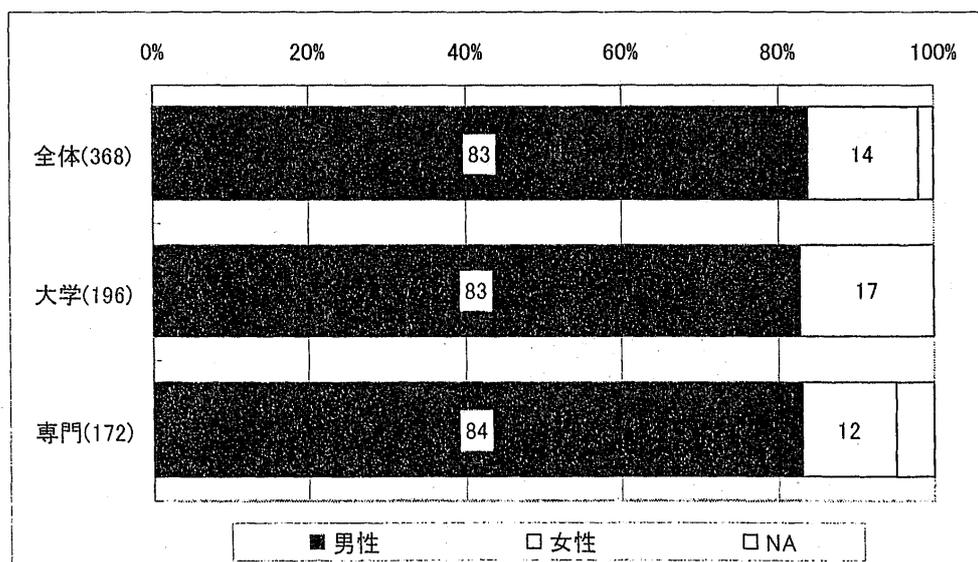
性別は、男性 83%、女性 14%。

<学校> (%)

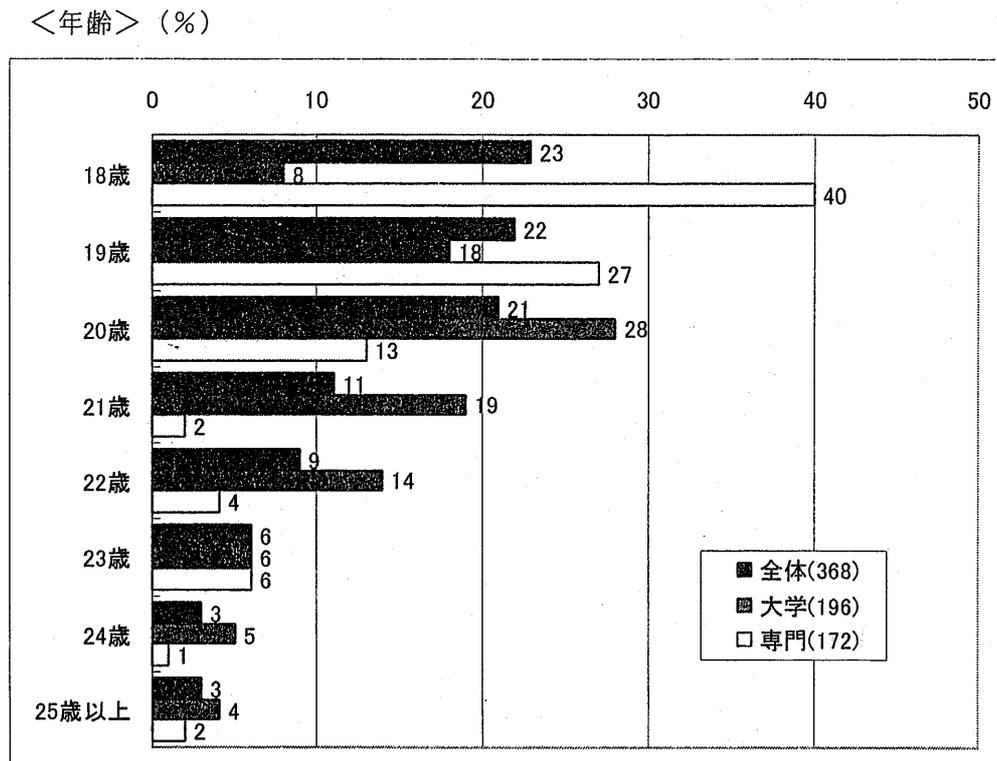


全体 368s のうち、大学生が 53%、専門学校生は 47%。

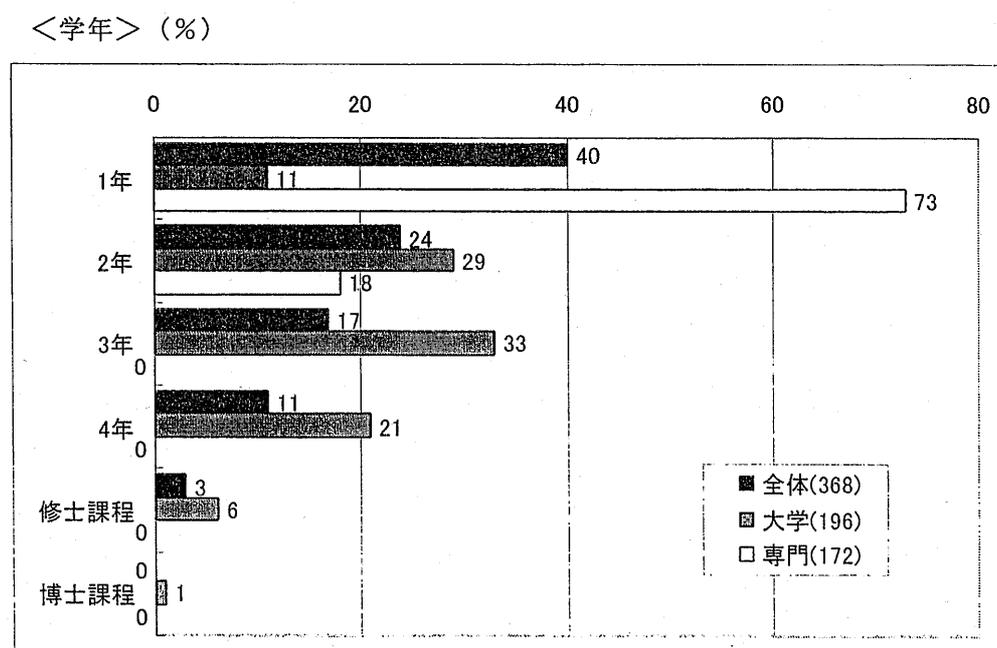
<性別> (%)



年齢は、専門学校生では18歳が多く、大学生では20歳がピーク。全体としてみても、18～20歳が多い。

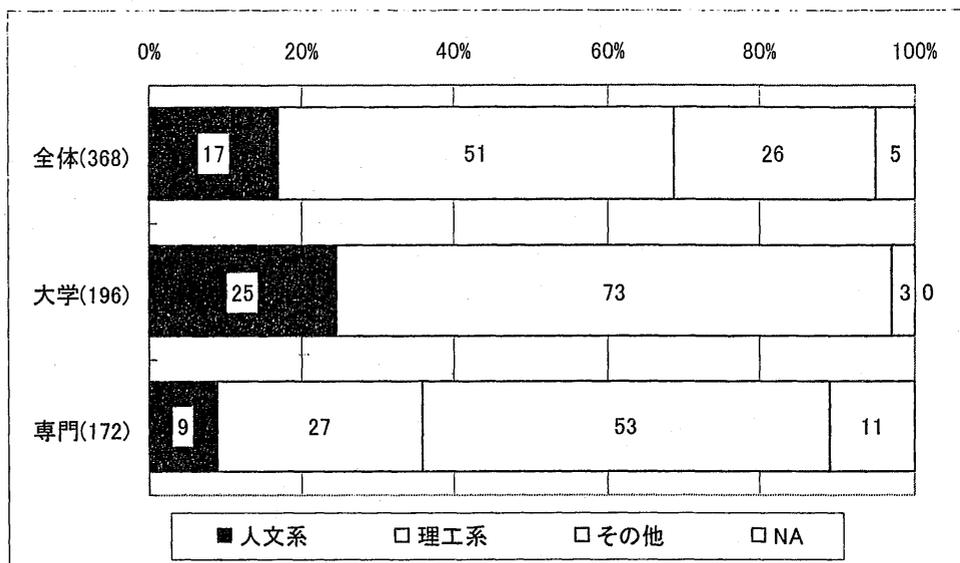


学年は専門学校生のほとんどが1年生。大学生は3年生が中心。



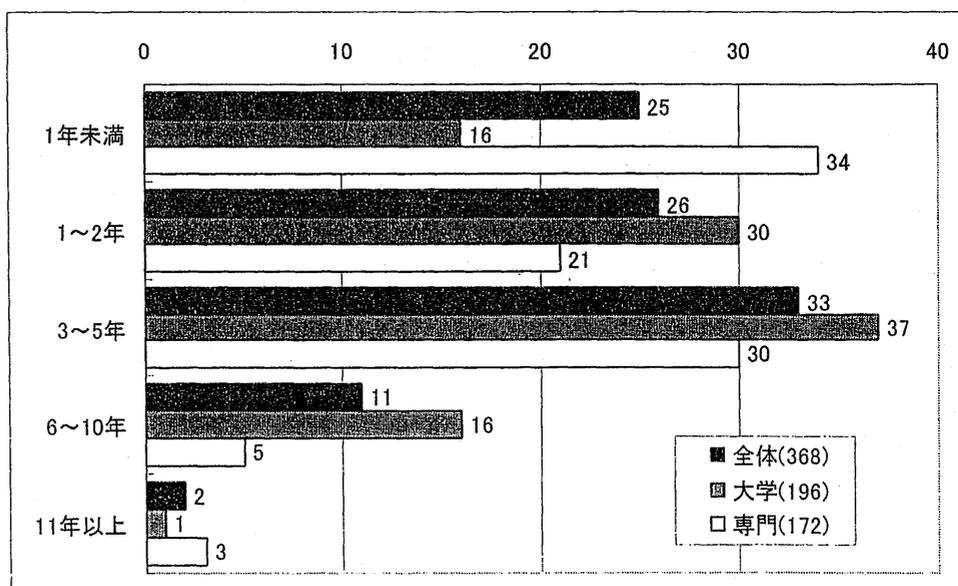
専攻は、大学生では「理工系」が多い。

<専攻> (%)



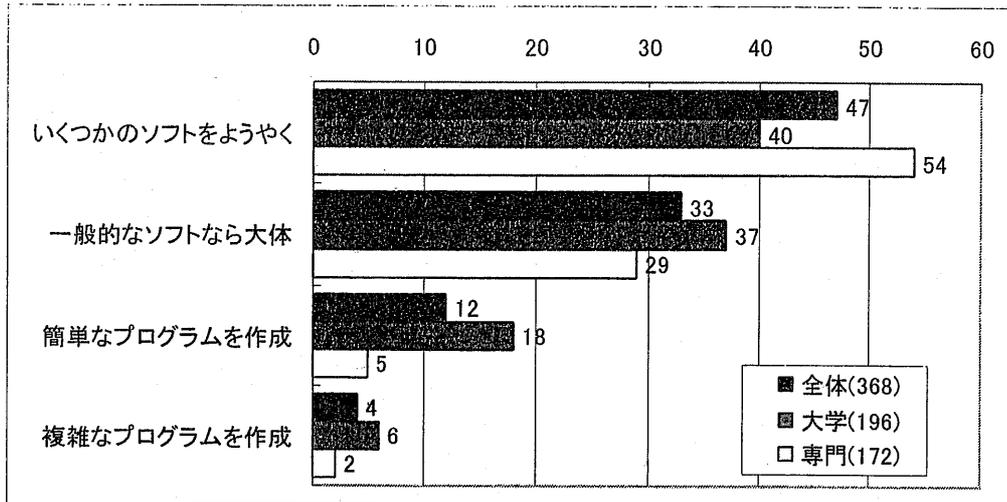
パソコン歴は専門学校生では「1年未満」が多いが、大学生は「3～5年」が最多。

<パソコン歴> (%)



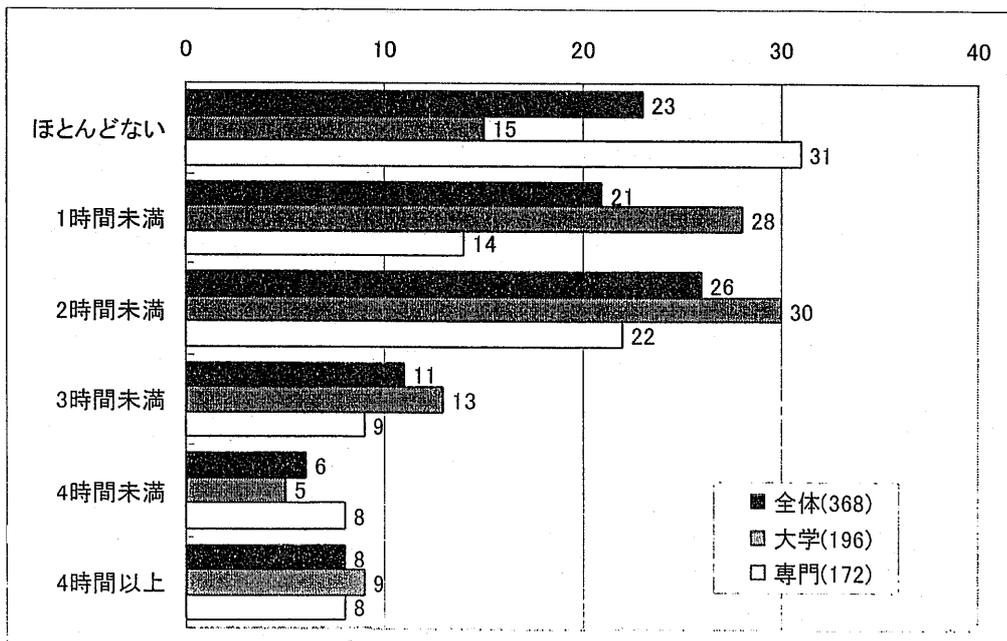
パソコン習熟度は、大学生、専門学校生ともに「いくつかのソフトウェアをようやく使いこなせる程度」が最も多い。

＜パソコン習熟度＞（％）



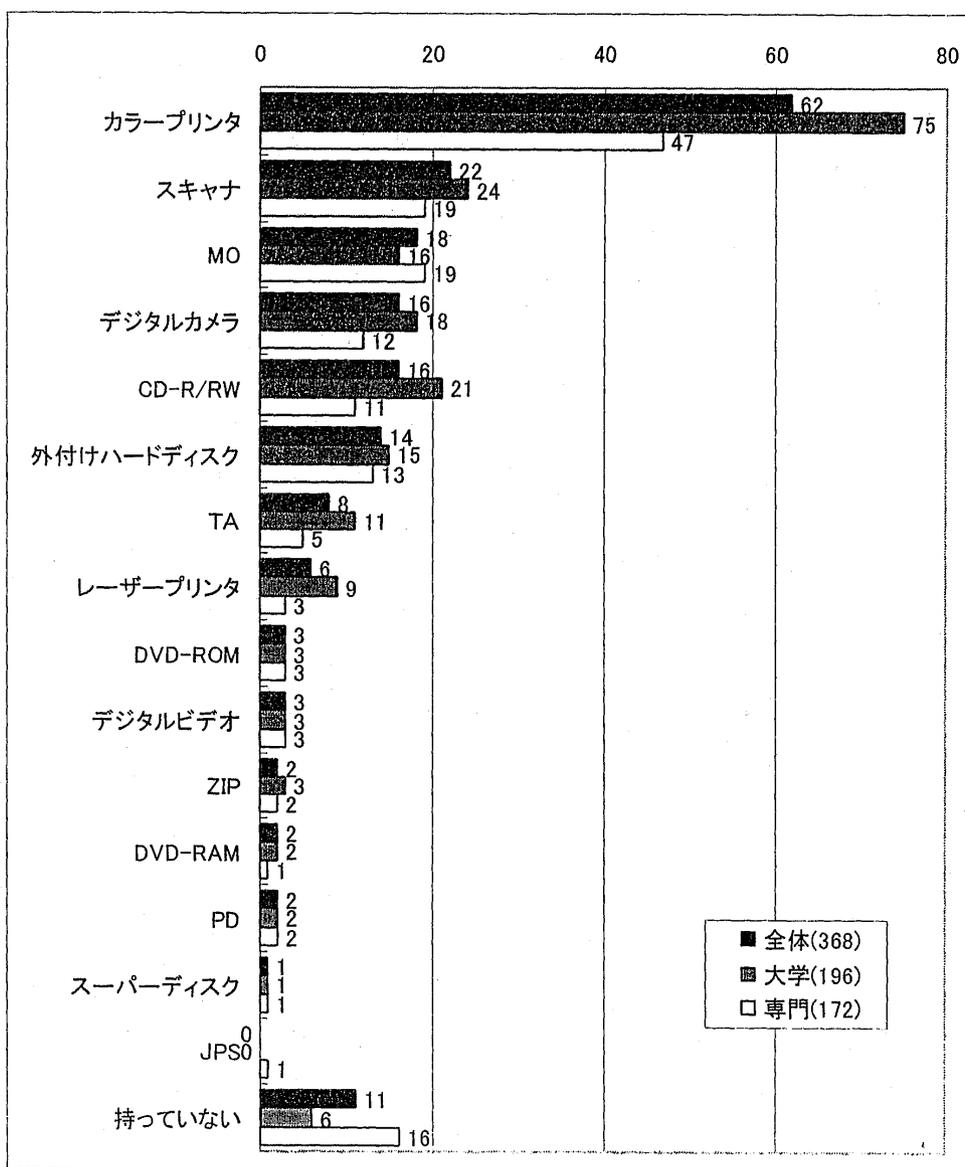
自宅での1日のパソコン使用時間は、専門学校生では「ほとんどない」が最多。大学生では「1時間未満」「2時間未満」あたりのユーザーが多い。

＜自宅でのパソコン使用時間＞（％）



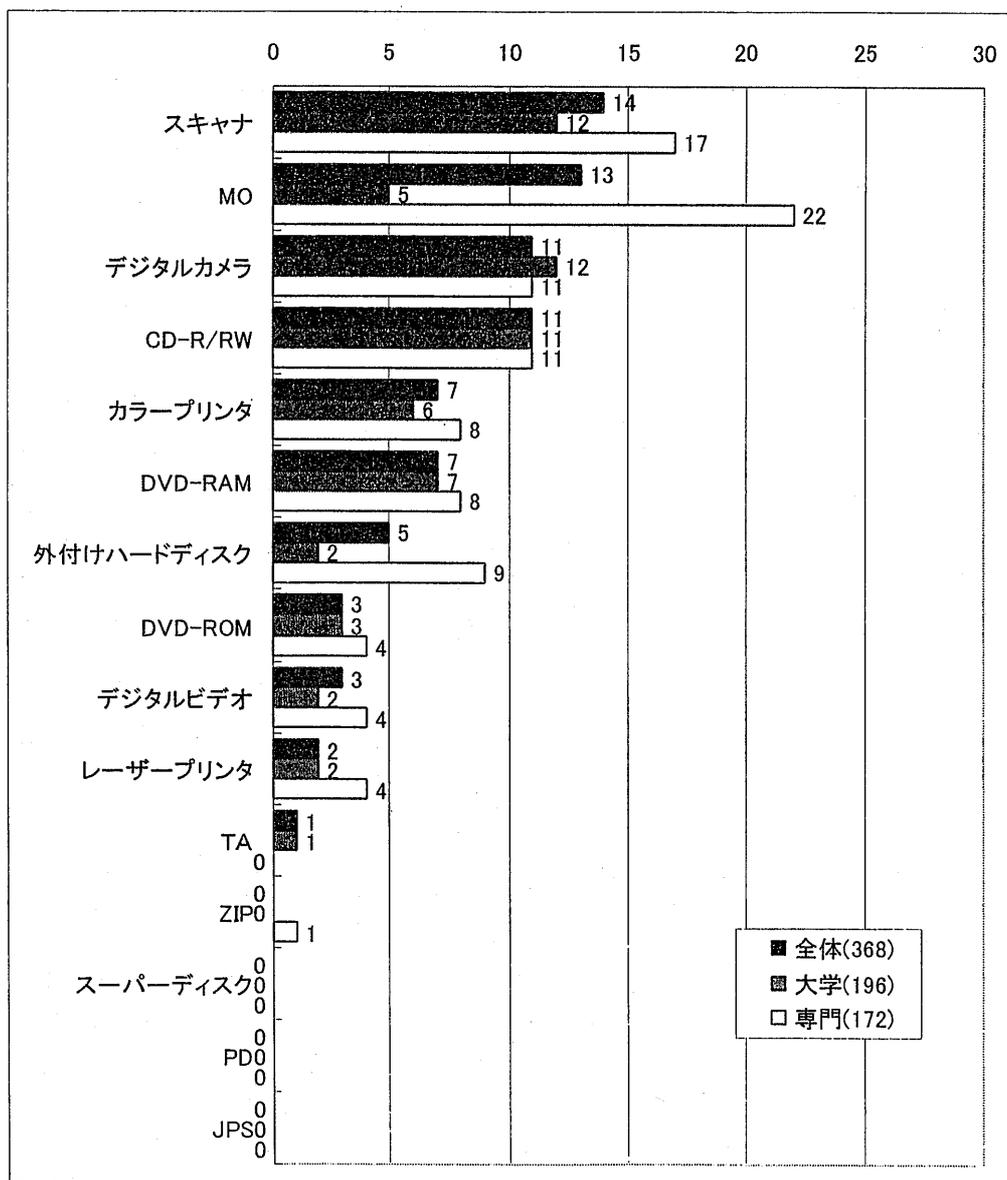
所有している周辺機器は、「カラープリンタ」が圧倒的に多く、全体の62%が保有。
 以下「スキャナ」22%、「MO」18%、「デジタルカメラ」16%、「CD-R/RW」16%、
 「外付けハードディスク」14%などが続く。

<所有している周辺機器> (%)



購入予定のある周辺機器は、全体では「スキャナ」14%、「MO」13%、「デジタルカメラ」11%、「CD-R/RW」11%などが多いが、専門学校生では「MO」22%と「スキャナ」17%がやや突出している。

<購入予定> (%)



1ヶ月の小遣いは、専門学校生では「1万円未満」が4割をこえるが、大学生では「2～3万円」25%、「4～5万円」21%が多い。

<1ヶ月の小遣い> (%)

